

平成 31 年度
事務事業評価シート
(学校教育課)
(学校給食共同調理場)

総合評価ランク

A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
D	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要

野辺地町教育委員会

目 次

1 教育委員の活動	12
2 授業の充実	
（ 1 ） 学力向上指導員の配置	13
3 特別活動の充実	
（ 1 ） 小・中作品展の開催及び音楽交歓会の開催	14
4 体育・健康教育の充実	
（ 1 ） バイキング給食の日	15
（ 2 ） 学童スキー大会の開催	16
（ 3 ） 大会派遣費補助事業費	17
5 生徒指導の充実	
（ 1 ） 教育相談室設置事業	18
（ 2 ） 生徒指導委員会の充実	19
6 キャリア教育の推進	
（ 1 ） 職場体験	20
（ 2 ） 学力向上支援事業（人財育成助成金）	21
7 特別支援教育の充実	
（ 1 ） スクールサポーター配置の充実	22
8 国際化、情報化に対応する教育の推進	
（ 1 ） 英語で元気なまちづくり事業	23
（ 2 ） ICT環境整備及び活用に向けた教職員の研修	24
9 研修の充実	
（ 1 ） 教職員ふるさと研修	25
10 教育環境の充実	
（ 1 ） 教育連携パートナーシップ協定事業	26
（ 2 ） 学校施設営繕・設備保全	27
（ 3 ） 教材備品の整備	28
11 その他	
（ 1 ） 第3期野辺地町教育振興基本計画の策定（新規）	29
（ 2 ） 教育広報の発行	30
（ 3 ） 「青い目の人形・レイワちゃん」歓迎会の開催（新規）	31
（ 4 ） 給食費の未納対策強化	32
（ 5 ） 就学援助費事業	33
12 学校支援活動	
（ 1 ） 学校支援推進事業	34
13 学校保健の取組み	
（ 1 ） 児童・生徒各種健診及び教職員特定健診	35

事務事業評価シート

施 策 名	教育委員の活動	担当課名	学校教育課
事務事業名	教育委員の活動	担当者名	飯田 満

事業の目的・内容	教育長及び4名の教育委員が、毎月の定例会や行事等に参加することにより、地域住民の実情に応じた教育行政を展開する。			
事業の対象	教育委員・課長・課長補佐			
事業費	年度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算	令和 2 年度予算
	金額	374 千円	570 千円	383 千円

事業の実績・成果等 (数値)	・教育委員会定例会への出席及び審議（毎月 年1 2回） （教育施策の一般方針の制定、規則・規定の制定、教育予算への意見等） ・小中学校へ学校訪問（年1回） ・小中高等学校の行事へ参加（入学式、運動会、卒業式等） ・その他、児童生徒に関する行事へ参加 ・総合教育会議等で町部局との懇談（年2回） ・県内外の研修会等へ参加			
-------------------	--	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	・ 定例会において、教育施策等を審議し、決定した。 ・ 平成31年度から会議録をホームページで公表し、透明性を高め、教育委員の活動についても理解を得よう努めた。		
今後の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・コミュニティスクールへの移行を考えると、教育委員には、どのような内容の助言をいただくことになるか、イメージできない。 ・研修に行ってどうだったのかという内容のわかるものが発信されると、町民も教育委員の活動が分かりますと思います。 ・普段見ている者としては、よく頑張っていたいただいていると思うが、全くふれあう機会のない人たちには馴染みのない言葉であると思う。活動の様子等を教育広報でお知らせしていただければ良いと思う。

評価委員意見(平成31年度)

・ホームページで公表し、活動内容が理解を得られるようになったのは良い事だと思う。今後、再なる教育委員の方々が教育現場の状況をしっかりと自分の目で見られたらと願う。 ・教育関係者としては、子供の情操面や学校環境面において、アドバイスは大変ありがたく、感謝しているところである。 ・事業実績が漠然としていて、今ひとつ中身が薄いように思う。 ・評価委員の意見を参考に、教育委員の活動を広めようと平成31年から改善したことを評価します。
--

事務事業評価シート

施 策 名	授業の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	学力向上指導員の配置	担当者名	木村 卓磨

事業の目的・内容	学力向上を図るため教職員への指導及び児童生徒へ直接学習指導をする非常勤臨時職員（学力向上指導員）を1名配置する。活動内容としては、小・中学校へ訪問指導するほかに、土曜日や長期休業中に、中央公民館にて小・中学生を対象とした学習会を開催する。			
事業の対象	教職員及び児童生徒			
事業費	年度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算	令和 2 年度予算
	金額	2,548 千円	346 千円	— 千円

事業の実績・成果等 (数値)	学力向上指導員 ・学校訪問指導（町内小・中学校） 56日 ・毎月、指導した内容の報告書を提出してもらい、それを各学校で共有することにより、町内学校全体の教職員の指導力向上に繋がった。			
-------------------	---	--	--	--

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	学力向上指導員本人の経験も踏まえた、授業の指導方法に関する具体的な所見と改善方法を教職員に伝えることにより、指導力の向上に寄与した。 令和元年度10月に、学力向上指導員本人の一身上の都合により退職した。 新たな人材が見つからないことと、予算の確保が難しいことから、令和元年度をもって事業完了とした。		
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☒ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	A	B	B	C	B

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・中央公民館での学習会はPR不足。また、初期登録制だけでなく、いつからでも参加できるようにできないか。

・学力向上指導員がいても学力についてあまり向上が無いことを知り、必要性をあまり感じていない。各学校の先生方との関係においては、良い点もあるというが、先生方の指導と共に、今後の教育に励ましと希望、やりがいを湧き立たせるような方向に導いてほしい。

・児童生徒の学力向上のため学力向上指導員を配置してきたが、成果が見える前に廃止になり、事業の継続の在り方をもう少し考えてもらいたい。

評価委員意見(平成31年度)

・個人的に学力向上に向けての指導も必要とは思いますが、情神的な心のフォロー、児童も教育者も、心の癒されるカウンセラー的なフォローが出来る人材がいてほしいと思う。

・10月までではあったが、授業における指導が良かった、こうすると良かったというアドバイスはとても参考になった。だが、ほぼ文書によるもので、授業者と学力向上指導員との対面コミュニケーションができないのが難点だった。

・指導力向上になっているのであれば、引き続き継続して欲しいと思う。

事務事業評価シート

施 策 名	特別活動の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	小・中学校作品展の開催及び音楽交歓会の開催	担当者名	小又 美穂

事業の目的・内容	小中連携事業の一環であり、特に音楽交歓会においては、幼稚園や高等学校と交流する機会を設けたりしている。			
事業の対象	町内の幼児、児童生徒			
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算	令和 2 年度予算
	金 額	60 千円	50 千円	60 千円

事業の実績・成果等 (数値)	・作品展については絵画・版画合わせて287作品から入賞作品139点が選ばれた。学年が上がるにつれて成長する表現力や個性が審査員に評価され、集中力やものごとの見方・感じ方を育てることに繋がった。 ・音楽交歓会については、野辺地小学校の体育館を会場に各小学校5・6年生、中学校吹奏楽部、ゲストとして野辺地高校音楽部の生徒が発表を行った。 ・事前に各学校に町民歌のCDを配布して練習を行い、交歓会の最後に町民・児童生徒全員で斉唱した。 ・令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の影響で作品展・音楽交歓会ともに中止となった。			
-------------------	---	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要がある。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	地域住民への町の子どものための日頃の学習の成果を発表する場となっている。 また、児童生徒が他の学校の子どものためのがんばりを見ることによって、刺激になっている。実施時期が中学生の受験準備や各行事に重なりやすいため、練習時間の確保に先生方が苦労している。		
今後の方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		A	B	A	A	A	A

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・予算の限られている中で開催されていることに感謝しています。作品や音楽の文化を通じて、交流できる町民の場として、今後も続けられるよう望んでいます。
--

評価委員意見(平成31年度)

・町はもちろん、日本の宝である子供たちが活動し、発表の場を通して交流が出来る事は素晴らしいと思う。コロナ禍ではあるが今後も続けていってほしい。 ・小中連携事業としては、良い行事と思う。作品展は秋が望ましいので、中学生の受験勉強があわただしくなる前に実施したいと考える。 ・町内だけではなく本物の音楽を聞ける場であって欲しい。

事務事業評価シート

施 策 名	体育・健康教育の充実	担当課名	学校給食共同調理場
事務事業名	バイキング給食の日	担当者名	浜野 裕子

事業の目的・内容	・バイキング方式での給食を通して、主食・主菜・副菜をバランスよく自分で選ぶ能力を身に付ける。 ・苦手な食べ物にもチャレンジする気持ちを育てる。 ・マナーを学ぶことができ、修学旅行の事前学習として役立てられる。 ・栄養教諭による出前授業を行い食育指導を実施する。			
事業の対象	バイキング給食：小学校5年生 食育指導：小中学校児童生徒			
事業費	年度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算	令和 2 年度予算
	金額	－ 千円	－ 千円	－ 千円

事業の実績・成果等（数値）	・栄養教諭による食育指導は、小・中学校全てで実施 （指導状況） 野辺地小学校 7回 馬門小学校 3回 若葉小学校 6回 野辺地中学校 3回 ・バイキング給食は、小学校5年生が対象 （実施回数） 野辺地小学校 1回、若葉・馬門小学校合同 1回			
---------------	--	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	【成果】食育指導の実施で偏りのない食事のとり方を理解したり楽しく食事をとれるよう学び、苦手なメニューも食べるようになっていく。バイキング給食は選択する楽しみや自分の食分量・組合せを考えたり食事のマナーや友達を思いやる心を学ぶことができる。 【課題】バイキングはメニューの種類が必要になるためコスト面が課題となっていたが、R2から給食費が改正になりメニューの工夫により子ども達にバイキングを楽しんでもらうことができる。 ※改正内容 1食当たり40円増額（町負担分10円含む）		
今後の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		A	A	A	A	A	A

評価委員意見（参考：平成30年度の評価意見）

・子供たちは非常に楽しみにしている。栄養士や調理員の皆さんへの感謝の心を育てていくのが教師の役目と感じる。 ・これからも卒を広げ、頑張っていたきたい。
--

評価委員意見（平成31年度）

・生きる事は食べる事。食育の大切さはもちろんですが、バイキング給食を通じて食事のマナーなど学ぶチャンスになります。今後もぜひ継続してほしい。 ・子供たちが非常に楽しみにしている行事である。ただ、今後、衛生面・感染予防面が更に厳しくなることを考えると、一考を要する。 ・とても良い取組みだと思う。

事務事業評価シート

施 策 名	体育・健康教育の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	学童スキー大会の開催	担当者名	杉山 拓

事業の目的・内容	①町内学校の冬季体育（学校スキー）の交歓を通して、運動能力の向上を図る。 ②大会参加を目指して練習・努力する過程を通して、人間性の育成を図る。 ③ルールに従い培った能力を表現する活動を通して、正しい競技参加能力を育てる。			
事業の対象	小学4年、5年、6年生			
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算	令和 2 年度予算
	金 額	284 千円	277 千円	280 千円

事業の実績・成果等（数値）	教育振興会主催の事業であり、運営に係る費用は町からの補助金となる。 用途としては、主に児童を送迎するためのバス借上料が約半分を占める。			
	○参加児童数の推移（4年、5年、6年生の合計）			
		H30年度	H31年度	R2年度（推定）
	野辺地小学校	142 人	124 人	110 人
	若葉小学校	114 人	119 人	135 人
	馬門小学校	21 人	15 人	17 人
	（合計）	277 人	258 人	262 人

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	スキー発祥の地として、本大会は町の伝統の一つであり必要性は高い。例年協力者不足が課題となっていたが、H30年度から業務の見直しを行い、人員配置を再考したことで、少ない協力者数でも支障なく進行できしており、各校保護者の負担も減っていることから取り組みを継続する。競技においては、アルペン競技の参加児童が野小のみとなっており、他校交流を図るのが難しくなっている。		
今後の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	C	B	B	A	B

評価委員意見（参考：平成30年度の評価意見）

・協力人員配置の見直しによって、運営の流れがスムーズになったと聞き安心したが、今後、協力参加できる方々を増やして、一緒に活動できるように、1回1回の行事を大切に人材育成をしていく必要がある。多くの目と心と体で将来・未来のある児童たちの育成に協力できたらと願う。 ・児童の減少により、大会自体盛り上がりがなくなってしまったが、スキー発祥の地として何かしらの対策をとって盛り上げてもらいたい。
--

評価委員意見（平成31年度）

・年によって雪の少ない時は実施できるか非常に悩みの種だと思いますが、止めるのではなく雪国ならではのスキー体験を今後も町民、心と力と知恵を合わせて協力し継続してほしい。 ・児童数の減少とともに、雪不足という課題が大きいのしかかった年であった。野辺地町としても、冬の一大行事なので、3校あるうちは残してほしい。 ・野小のみのアルペンに疑問あり。学童スキー大会の意味がないように思う。 ・人手が少ない中、工夫して開催したことに努力がみえた。大変だろうけど、ぜひ継続してほしい。

事務事業評価シート

施 策 名	体育・健康教育の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	大会派遣費補助事業	担当者名	橋本 幸子

事業の目的・内容	小中学校の部活動、スポーツ・文化活動において大会へ参加するための交通費や宿泊費等を補助する事業であり、保護者の負担を軽減するとともにスポーツ・文化活動の振興を図るものである。			
事業の対象	小中学校、スポーツ少年団など			
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算	令和 2 年度予算
	金 額	4,296 千円	3,839 千円	4,900 千円

事業の実績・成果等 (数値)	(中学校) 東北大会：柔道、ハンドボール、駅伝、卓球、スキー等 全国大会：スキー、ハンドボール、空手、駅伝 県大会中学校アンサンブルコンテスト他…22大会 3,576,124円			
	(スポ少) 全農杯全日本卓球選手権 (神戸市) 全日本レスリング選手権 (東京都) 全日本少年少女空手選手権 (東京都) …3大会 262,020円			
	※交通費・宿泊費等は、指導者全額・選手半額の補助となっている。			

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	県内の大きな大会は、町バス(予算内)で対応し交通費がかからないようにして いる。選手以外で参加する部員等は、宿泊費など対象とならないが学校からは、 補助して欲しいという意見がある。 今年度は、コロナで全国大会等中止になっている。		
今後の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		A	A	A	A	A	A

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・例に挙げられていた卓球の東北大会で、練習相手にも補助を適用したというのは大賛成。このように、理由があって、選手以外にも援助するのはよいと思う。

・各活動に対して全部に満足できる予算が不足している中でも、夢を持ってつき進んでいる子どもたちと、それを応援している保護者・関係者が一生懸命支えていることに対して感謝しています。ここでしか得られない体験をしている子どもたちが成長し、親となったときに、逆に支え、指導者としてこの町で活動している日が来るような時を思うと、予算を増やしていただきたい。

・少しでも負担が減るのはとても嬉しいことである。同時に、感謝と頑張ろうという意欲も湧いてくる。

評価委員意見(平成31年度)

・子供たちの健康には、夢と希望が必要だと思う。好きな活動をあきらめるのではなく、協力できる補助事業がある事によって前進でき、感謝の気持ちが生まれてくると思う。

・選手および練習相手の児童生徒にも補助を適用するのは大変良いと思う。その際、多方面から支援されているという感謝の気持ちを育てるような指導者の言葉があった方が良いと感じる。

・各競技でたくさん予算が使えるようになることを期待します。

事務事業評価シート

施 策 名	生徒指導の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	教育相談室設置事業	担当者名	小沼 尚

事業の目的・内容	町勤労青少年ホーム内に野辺地町教育相談室を設置し、教育相談や不登校支援等を実施している			
事業の対象	児童生徒・保護者・教師			
事業費	年度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算	令和 2 年度予算
	金額	3,292 千円	4,576 千円	4,469 千円

事業の実績・成果等 (数値)	○教育相談室の設置 適応指導員1名・指導員2名のほか、スクールソーシャルワーカーにより、教育相談に対応。相談受付：月～金、9時～15時。 ○相談実績 面接相談（来室・訪問等） 子ども 54名、大人 194名、計 248名 電話相談 子ども 4名、大人 323名、計 327名 総計 575名 ○通室活動実績 小学生2名、中学生3名の通室があった。5名合計年間203日の出席があり、学校出席日数に換算されている。 ○スクールカウンセラーの配置 ・予算については、県費負担。配置拠点校及び配置人数は1名。 ※年間配置数は野辺地中は30日、野辺地小12日、若葉小20日、馬門小12日。 ・延べ相談者数は、野辺地中23名、野辺地小30名、若葉小20名、馬門小12名。			
-------------------	---	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	町内の教育相談や登校渋り及び適応指導に対応する施設であり、町健康づくり課をはじめ各関係機関や町内各学校とも必要に応じて連携協力を図り、相談者の悩みの軽減に取り組んでいる。 相談内容やその背後にある環境に複雑なものが多くなってきており、長期的な対応に必要なケースもあることから指導員の負担が大きくなっている。		
今後の方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		A	B	B	B	B	B

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・不登校支援においては、無くてはならない事業。中学生の通室が多くなれば、小学生への指導が手薄にならないかだけが心配。 ・さまざまな環境で生きている私たちですが、子どもの心だけでなく、親である私たちの心や経済的な「ゆとり」が努力しても得られない時代だと思います。一人一人に心で接して、心の筋肉が強くなれたらと願っています。心のよりどころとなる相談室になることを望んでいます。 ・これから先、絶対必要な政策の一つとなってくると思うので、頑張っていたきたい。

評価委員意見(平成31年度)

・スクールソーシャルワーカーが教育相談に対応できているのは良いと思う。年々、人口は減っているが支援の必要な子どもと親が増加しているのは野辺地町だけではないと思います。今後も指導者の育成に努めてほしい。 ・不登校児童生徒に対する文科省の見解が見直された。それは、最終的に学校現場への復帰を目指すものではないということ。従って、学校へ行けない児童生徒が教育相談室を自分の居場所と感じていれば、それで良いと思う。 ・先生方も頭を悩ます部分だと思うので、是非、先生方にも目を向けて欲しい。 ・相談後のその子の先が見えてこない。その場限りの指導のように思われるので、もう少し踏み込み長い活動をしてほしい。

事務事業評価シート

施 策 名	生徒指導の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	生徒指導委員会の充実	担当者名	小沼 尚

事業の目的・内容	小・中・高で連携し問題行動のある児童・生徒を指導、見守りしていく体制を整える。 (町教育振興会事業)		
事業の対象	小・中・高生徒指導教諭・警察・上北教育事務所・教育委員会・健康づくり課		
事業費	年度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算
	金額	10 千円	10 千円

事業の実績・成果等 (数値)	令和元年5月～令和2年1月 年5回生徒指導委員会を開催。 小学校・中学校・高校・警察・上北教育事務所・教育委員会・健康づくり課の職員で情報交換を行い、児童生徒の問題行動に関し情報共有することにより、問題解決に町ぐるみで取り組んだ。 夏祭り期間の連携しての巡回指導、交通安全運動に合わせて登校指導の実施やスマホやインターネット利用状況の実態について確認した。		
-------------------	---	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要がある。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	町関係各課、町内小中高等学校、教育委員会、警察等情報共有及び連携ができたことにより生徒指導上の課題について協働して取り組んだりすることができ、問題行動の予防につなげることができた。		
今後の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		A	A	A	A	B	A

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・アンケートの結果から、改善・新計画を立てるところまでいって成果と言える。
・一人でもたくさんの温かい目があると安心です。
・問題が無いことが成果であり、今後も関係機関の連携が大切と思う。
・共通の認識を持つという情報交換の機会としては良いことだと思う。

評価委員意見(平成31年度)

・今後も継続してほしい。
・小、中、高の連携が効果的なのは、この生徒指導関係である。今後の課題は、スマホ・ゲーム依存にならないよう、家庭の教育力を高めることと思う。
・継続に期待します。
・情報提供、情報共有がなされている、とのことで成果ありとのことだが、予防のための対策のアクションをおこしてほしい。

事務事業評価シート

施 策 名	キャリア教育の推進	担当課名	学校教育課
事務事業名	職場体験	担当者名	飯田 満

事業の目的・内容	一人一人の子どもが自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる資質・能力の育成を図るため、小中学校等の教育活動を支援する。			
事業の対象	中学校、小学校			
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算	令和 2 年度予算
	金 額	0 千円	0 千円	0 千円

事業の実績・成果等 (数値)	・野辺地中学校：11月に職場体験を3日間実施。 町内事業所38事業所で職場体験を行い、学校外で仕事を体験したり、普段気が付かない仕事などの裏側を体験し、事業所の方からのアドバイスをうけながら貴重な体験をしている。 ・野辺地小学校：9月に6年生が職場体験を1日実施し、14事業所で体験。			
-------------------	---	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	役場でも、今後、小中学生の職場体験、高校生のインターンシップ、大学生の教育実習等を積極的に受け入れていきたい。		
今後の 方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		A	A	A	A	B	A

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・各事業所が無償で受け入れてくれていることは感謝しかない。野辺地町は子供の教育に対しては、一肌脱ぎましようという精神が根付いていると感じる。行政には、受入れ事業所であることの表示(ステッカー等)を作成、配布してほしい。

・相手があつての職場体験なので、良い学びの時となると思います。社会に出る一歩がこれからの人生の大きな前進につながっていくことを望みます。

・小さい頃の体験はとても大事で、かけがえのないことなので、各事業所の皆様の協力には、感謝の気持ちでいっぱいです。

評価委員意見(平成31年度)

・たくさんの社会経験を体験して、これからの人生に少しでも役に立てられたらと思う。忙しい中、場を提供してくれた方々に感謝です。

・キャリア教育としての職場体験は非常に有益である。

・多くの受け入れ事業所があることに感謝すると共に、また一つでも受け入れてくれる事業所が増えてくれたらと思う。

事務事業評価シート

施 策 名	キャリア教育の推進	担当課名	学校教育課
事務事業名	学力向上支援事業（人財育成助成金）	担当者名	橋本 幸子

事業の目的・内容	町内の高等学校に在籍している生徒のうち、国公立・県立大学の入学試験を受ける生徒を対象に、長期休業中を利用して民間の学習塾が実施している短期間講習会を受講する経費（受講料、交通費、宿泊費）を、町から助成金を交付する事業。 目的は、生徒の学力向上、町内高等学校の進学率向上とそれに伴う高校の魅力づくりを図ること。今年度交付要綱を変更し、交付対象事業に外国語によるコミュニケーション能力を養うための短期間海外研修を加えた。			
事業の対象	町内の高等学校に在籍している生徒			
事業費	年度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算	令和 2 年度予算
	金額	1,340 千円	1,241 千円	1,122 千円

事業の実績・ 成果等 (数値)	○予備校短期講習
	①【期間】 令和元年8月5日～8月10日【場所】 河合塾仙台校 野高3人 309,100円
	②【期間】 令和2年1月2日～1月7日【場所】 河合塾仙台校 野高2年生2人
	【期間】 令和2年1月1日～1月7日【場所】 河合塾仙台校 3年生1名 672,910円
	○海外研修
	③【期間】 令和2年1月19日～23日 【場所】 フィリピン
	【人数】 八戸学院野辺地西高等学校 1年生1人 3年生1名【金額】 258,752円 (半額補助)

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分にできている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価		B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び 考察、課題		熱心な生徒は、毎年参加している。 春期講習会は、支給まで進んだが新型コロナが流行し、実施できなかった。 一部の生徒が参加し、ある程度の成果はあった。令和2年度は、野辺地町に講師を呼び多くの生徒が参加できるよう計画している。 実施後成果をみて、今後の実施方法を考察していく。	
事業の 方向性		☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・今後、野辺地町に講師を呼んで、勉強の仕方やこれからの人生を歩んでいく仕事の選択を決めるチャンスになってほしいと望みます。

・目に見える成果を上げていて素晴らしい。もっともっと力を入れていただきたい。

評価委員意見(平成31年度)

・勉強の仕方がわからない子供たちに、学ぶ喜びが伝わるきっかけとなればと思う。

・予備校短期講習にも海外研修にも参加している人は、両方で助成金を受けることになるが、「人材育成」という観点から、幅広い分野へ適用しても良いのではないか。

・一人でも多くの生徒が参加出来ることを期待します。

事務事業評価シート

施 策 名	特別支援教育の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	スクールサポーター配置の充実	担当者名	木村 卓磨

事業の目的・内容	町内学校において障害をもつ児童生徒や学習が遅れがちな児童生徒等の、特別な支援を必要とする児童生徒の生活や学習を支援するためのスクールサポーターを設置する。		
事業の対象	町内小・中学校		
事業費	年度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算
	金額	13,541 千円	15,051 千円
			令和 2 年度予算
			15,087 千円

事業の実績・成果等 (数値)	○配置人数の推移				
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	野辺地小学校	3 人	3 人	3 人	4 人
	若葉小学校	2 人	3 人	3 人	4 人
	馬門小学校	1 人	2 人	3 人	2 人
	野辺地中学校	2 人	2 人	2 人	3 人
	○H30年度特別支援教育支援員スキルアップ研修参加状況				
	1 2 名 (内新規採用者 4 名)				

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	町内学校においては、特別な支援が必要な児童生徒は年々増加傾向にあり、学校が要求するスクールサポーターの人数も増えてきている。令和元年度においても増員している。今後も、財政課と調整しながら、できる限り学校の要望に応えていきたい。		
	研修に関しては、H30年度から、県教育委員会主催の特別支援教育支援員スキルアップ研修にスクールサポーターを参加させ、発達障害等の児童生徒に対する学習支援の実践的な知識などを習得した。		
今後の 方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		A	A	A	A	A	A

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・スクールサポーターの研修はとても良いと思います。

・とても良い事業である。ただサポーターの皆さんの個々に力の差があるので、そこを見極め、適切な人の配置をお願いしたい。

評価委員意見(平成31年度)

・スクールサポーターの学びの場は絶対必要です。ロールプレイをしたり、学校の現状など、いろんなパターンを知ったり、対処できるスキルが向上できればと思います。

・低学年は少人数学級が可能で、1クラスの児童数がそれほどでもないが、中学年以上は30～40人と大変多い。担任1人では、掌握が困難なため、スクールサポーターの重要性は年々増している。

事務事業評価シート

施 策 名	国際化、情報化に対応する教育の推進	担当課名	学校教育課
事務事業名	英語で元気なまちづくり事業	担当者名	小又 美穂

事業の目的・内容	英語指導を行う外国語指導助手（ＡＬＴ）の派遣事業。小学校からの英語コミュニケーション能力育成により中学校への円滑な移行を図るとともに、幼少期からの英語指導により英語教育に順応しやすい児童生徒の育成を図る。			
事業の対象	児童生徒及び幼児、一般町民			
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算	令和 2 年度予算
	金 額	10,481 千円	10,636 千円	16,278 千円

事業の実績・成果等（数値）	ＡＬＴを各小・中学校、野辺地保育園、野辺地カトリック幼稚園及び公民館等での英語指導に配置した。 ・各学校等での指導日数 小学校：１８３日 中学校：１８６日 幼保：５日 ・図書館、公民館での英会話教室やサークル活動に配置 ・平成３１年４月９日～１０日にオーストラリア・クイーンズランド州の私立学校から中高生３４人が来町し、町内の名所巡りや小中学生との交流を行った。			
---------------	---	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要がある。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	各小中学校及び保育園や幼稚園での指導の他、一般町民向けの英語教室でも指導を行い、世代を問わず英語に触れる機会の提供ができた。 中高生との交流事業では、年の近い外国人と触れ合うことによって、子どもたちが外国に興味を持ったり、英語学習へのモチベーションに繋がったとみられる。		
今後の方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成30年度の評価意見）

・ＡＬＴには満足している。 ・クッキングやスポーツ等、英語だけのアクティビティをもっと企画してほしい。小中学校での宣伝も更に必要。 ・日本にいて海外のことを知る場となったら楽しい感じがするのですが。英語の勉強となるとなかなかおっくうになるので、ここが、イギリスやアメリカとか、本物に近いイベントなどあればワクワクします。 ・ふれあうチャンスをもう少し簡単に。
--

評価委員意見（平成31年度）

・日本語の中で生活しているため、なかなか生の英語に触れる体験の場が少ないので、学ぶのはもちろん気軽に話せるようなチャンスがほしいです。 ・小学生からではなく、幼児から英語に触れあうのは良いことだと思う。小学校は評価も入ってくるが、幼児期には、遊びの中で英語を聞く耳を育ててほしいと願っている。 ・もっとたくさんの時間が確保出来たらと思う。

事務事業評価シート

施 策 名	国際化、情報化に対応する教育の推進	担当課名	学校教育課
事務事業名	ICT環境整備及び活用に向けた教職員の研修	担当者名	杉山 拓

事業の目的・内容	平成29年・30年改訂の学習指導要領においては、初めて「情報活用能力」を学習の基盤となる資質・能力と位置付け、その育成のために必要なICT環境の整備が求められている。また、令和元年度には、「GIGAスクール構想の実現」と銘打って、児童生徒1人1台端末の実現とそれらの高速大容量の通信を可能とする環境の構築を推進するため、これらに係る補助金が新設された。 本事業は、町内小・中学校のICT環境の整備及び活用のための研修を実施し、多様な子供たちの資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の実現を図るものである。			
事業の対象	町内小・中学校			
事業費	年度	平成30年度決算	平成31年度決算	令和2年度予算
	金額	0千円	5,502千円	103,622千円

事業の実績・成果等（数値）	<タブレット整備概要> 野辺地小：48台（うち指導者用8台）、若葉小：55台（うち指導者用9台）、馬門小：18台（うち指導者用3台） 合計121台 <契約等> ■教育用タブレット貸借（R2.2～） 647,664円（月額323,832円×2ヶ月） ■教育用タブレット教材貸借（R2.2～） 137,280円（月額68,640円×2ヶ月） ■小学校教育用タブレット関連物品 2,962,300円 ■中学校ICT環境整備関連物品 1,753,950円 <その他> ・導入時研修の実施（令和2年1月。各学校ごと） ※上記事業費のうち、令和2年度予算は6月議会でGIGAスクール構想関連事業費を補正した後の金額。			
---------------	--	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☐ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☒ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	携帯電話等のLTE回線を使用したタブレット端末を各小学校に1クラス分導入し、導入前に比べ活用の場面が飛躍的に多くなっている。 活用場面が増えたことにより、タブレットやICT環境に関する先生方からの問合せや要望が増えているため、今年度実施するGIGAスクール事業とも併せて、トラブルが少なく使いやすいICT環境を実現したい。		
今後の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	B	B	B	B	C

評価委員意見（参考：平成30年度の評価意見）

- ・タブレットPCにインストールされる「ロイロノート」の活用がカギとなる。先生方への研修（リーダー研修→学校で周知）を企画してほしい。
- ・忙しい仕事の中、先生方の研修、本当に大変だと思います。
- ・昨年に比べれば、先が少し明るくなった。

評価委員意見（平成31年度）

- ・コロナ禍の中で必要性が大となったので、これからの研修なども含めて指導者の育成に努めてほしい。
- ・平成30年度の評価に「ロイロノートの活用がカギ」とあったが、まさにそのとおりで、タブレットPCでは非常に効果的。教員に「使ってほしい」と言うだけでなく、定期的にレクチャーする機会を設けたらどうだろうか。
- ・もっと進めて欲しい。
- ・これから必要なことだと思うので、先を見すえた活動であってほしい。

事務事業評価シート

施 策 名	研修の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	教職員ふるさと研修	担当者名	木村 卓磨

事業の目的・内容	新たに当町に着任した教職員等を対象に、当町の歴史や文化、特産品などを紹介することで、当町に興味を持ってもらい、当町の特性をよく理解してもらうことで、社会科の地域学習をはじめとした指導力の向上を図る。			
事業の対象	・教諭等として新たに任用された職員（初任者） ・野辺地町に初めて着任した教職員 ・5年以上野辺地町を離れていた教職員			
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算	令和 2 年度予算
	金 額	2 千円	2 千円	2 千円

事業の実績・成果等（数値）	○視察場所 歴史民俗資料館、行在所、常夜燈公園、みちのく丸、漁業協同組合、JAゆうき青森、まかど温泉スキー場（ハッチョウトンボ観察）、行在所（昼食：松浦さんによる郷土料理） ○講師：歴史を語る会 会長 鈴木幹人、教育委員 野坂幸子 ○研修参加者：教職員13人、役場職員4人 ○【アンケート結果】大変有意義だった9名、有意義だった8名、まあまあだった0名、もの足りない0名、非常に不満0名			
---------------	---	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要がある。）			
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない	
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない	
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない	
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
☒ 達成できている			☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価		A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題		アンケート結果については、「野辺地町の歴史、文化、よい所、よい食べ物、特産品を知ることができてよかった」、「子どもたちの学びに生かせる地域の魅力があると感じることができた」、「授業だけでなく日常の会話にも生かしていきたい」など、すべて肯定的な意見であった。 今後も継続してアンケートを実施して内容を改善していきたい。		
今後の方向性		☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		A	A	B	A	A	B

評価委員意見（参考：平成30年度の評価意見）

・今年参加して、野辺地町についての理解を深めることができた。 ・とても良い取り組みですが、町の文化をどのように残していくのかは課題だと思います。無形文化は人がつなげるものです。 ・初めて野辺地町にいらした先生方やもうすでに町にいる方々にとって、良い体験と出会いの時になっていると思います。この研修を通して、心に残ったことが一つでもあり、少しでも「心のふるさと」になってほしいと願っています。 ・地元の良さを知ってもらうというのは、頑張る意識につながるはずなので、とても良いと思う。
--

評価委員意見（平成31年度）

・毎年、研修に参加される方々が異なるので、この企画が野辺地町を知ってもらえる良い時となるように、内容を充実させながら継続してほしい。 ・ふるさと研修を受けた教師からは、高い評価を得ている。 ・この事業はもっと広げて行なって欲しい。 ・参加した方々がとても良かったということは、大成功な事業で野辺地を知ってもらうきっかけとして、すごく役に立っている。
--

事務事業評価シート

施 策 名	教育環境の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	教育連携パートナーシップ協定事業	担当者名	木村 卓磨

事業の目的・内容	町教育委員会（小学校・中学校）と高等学校が連携・協力し、活力ある個性豊かな教育活動をより一層推進することを目的として、教育連携パートナーシップ協定を県立野辺地高等学校及び八戸学院野辺地西高等学校それぞれと平成30年7月に締結した。 また、連携事項を円滑に推進するために「野辺地町教育連携推進会議」を設置した。会議は必要に応じて開催し、連携事項について報告・協議等を行う。			
事業の対象	教職員及び児童生徒。			
事業費	年度	平成30年度決算	平成31年度決算	令和2年度予算
	金額	0千円	0千円	0千円

事業の実績・成果等（数値）	● 第1回野辺地町教育連携推進会議 令和元年9月12日（中央公民館） ● 実施した主な連携事項 ・小学生対象の寺子屋事業、中学生対象の体育実技演習（野辺地高校） ・のへじ祇園まつりでの山車の制作及び運行（野辺地西高校） ・高校生に対する人材育成事業（学力向上支援、競技スポーツ強化支援） ・在学青年ボランティア会、「地域のお宝物語」高校生育成事業（地教委）など			
---------------	---	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	これまで、地教委（小・中学校を含めて）は野辺地高校、野辺地西高校とは必要に応じて連携してきたが、教育連携パートナーシップ協定を締結することで、連携の目的や内容をより明確にすることができた。 今後は、連携推進会議の中で、現在実施している連携事項を見直ししながら、必要に応じて新たな連携事項について検討し、実施していきたい。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成30年度の評価意見）

・当初、何のためにやっているか分からない事業であったが、寺子屋事業での児童の感想を読み、小・中・高の連携・交流の必要性を強く感じた。 ・小学生対象の寺子屋はとても良いと思います。スポーツ寺子屋があっても良い。 ・さっきまで全く他人だった人たちが、一つの事業で集い、語らい共に時間を過ごす中で、お互いを知り、少しずつ友達になっていき、コミュニケーションが上手にとれるようになってほしいと望みます。 ・もっともっと若い力をいろんな場面で発揮してもらおうよう頑張る機会をもっと与えてほしい。
--

評価委員意見（平成31年度）

・なかなか活力のある個性豊かな教育活動を推進して行く事は大変だと思っていますが、今後も若い方々の交流の場として、計画的に実施してほしいと思います。 ・高校生は、小学生から見ると「お手本」に近い。寺子屋事業では、「楽しかった」という感想が多かった。小学校の「いじめ問題」に対しても高校生のお話は非常に効果的と言われているので、生徒指導面でも連携してほしい。 ・高校生にとっても貴重な経験と時間だと思うので、継続して欲しい。 ・これからの更なる発展を望む。大人にはない柔軟な発想を持っている子供たちのパワーを野辺地町に活かしてほしい。

事務事業評価シート

施 策 名	教育環境の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	学校施設営繕・設備保全	担当者名	杉山 拓

事業の目的・内容	教育施設の維持管理及び修繕工事を実施し、安全・安心な学校づくりを目指している。			
事業の対象	各小学校			
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算	令和 2 年度予算
	金 額	23,292 千円	39,376 千円	3,226 千円

事業の実績・成果等（数値）	■実施工事			
	①町内小学校エアコン設置工事 総額 1,533,600円 ②野辺地小学校校庭監視カメラ設置工事 168,480円 ③野辺地小学校普通教室床改修工事（2教室） 1,250,532円 ④若葉小学校普通教室床改修工事（1教室） 719,620円 ⑤野辺地小学校トイレドア改修工事 135,300円 ⑥野辺地小学校階段手摺取付工事 462,000円 ⑦照明機器P C B 関連工事・業務 総額 5,446,960円 ⑧若葉小学校梁型仕上材落下防止工事 総額16,667,640円 （設計・監理業務含む） ⑨町内小学校トイレ洋式化工事 総額12,396,200円 （設計・監理業務含む） ※上記の事業費は、工事請負費及び工事関連業務の合計金額。			

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要がある。）		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	限られた予算の中で児童の安全を最優先に改修等を実施している。 改修にも限度があり、全小学校施設における老朽化への対応策が課題となっている。		
今後の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		A	C	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成30年度の評価意見）

・トイレの洋式化は遅れている。安心・安全が優先なのは分かるが、トイレ個室の水まわりの不具合で使用不可になっている個室は、一刻も早く、使用できるようにしなければならない。 ・予算の決められている中で、安心・安全を第一に行われていることに、心からお礼申し上げます。 ・安全確保をこれからも最優先で行ってほしい。
--

評価委員意見（平成31年度）

・限られた予算の中で、必要な所から手をかけて下さっているので感謝します。 ・「安心・安全な学校づくり」をしてくれていると、ひしひしと感じる。 ・上の階から水が落ちて来る野小を見ていると悲しくなる。

事務事業評価シート

施 策 名	教育環境の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	教材備品の整備	担当者名	小又 美徳

事業の目的・内容	毎年度実施 教育課程にもとづき授業を実施するうえで、児童・生徒の心身の向上や能力向上のための備品を購入するもの。また、既存備品が古くなったり、故障や破損して使えなくなった備品を廃棄し、新規購入するもの。			
	事業の対象 教員及び児童・生徒			
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算	令和 2 年度予算
	金 額	2,201 千円	3,551 千円	1,447 千円

事業の実績・成果等 (数値)	野小 812,808円 (一般479,520円、教材259,416円、特支73,872円) 若小 530,388円 (一般450,468円、教材79,920円) 馬小 120,800円 (一般51,680円、教材69,120円) 野中 405,108円 (一般320,220円、教材84,888円) 楽器 268,920円			
	毎年11月末の来年度当初予算編成向け、各小中学校が必要な備品を取りまとめ教育委員会へ提出。教育委員会は学校が要望した備品について担当者から聞き取り、必要性を検討、精査してから町部局へ予算要望している。			

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	備品の劣化や損壊により各校からの要望は多くなっているが、予算査定により大幅に減額されている。 学校事務職員の協力により備品リストへの入力を進めており、今後、学校間のリストの共有に向けて体制を整える。		
今後の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・今後も備品リストを点検し、補充等に努めてほしい。

評価委員意見(平成31年度)

・リスト作成と備品の共有へ向けての作業をよろしくお願い致します。紙のデータではなくエクセルで管理していくと聞いたので、完成したら学校には有益であると思います。

・全ては子供たちのために。十分に補充していただきたい。

事務事業評価シート

施 策 名	その他	担当課名	学校教育課
事務事業名	第3期野辺地町教育振興基本計画の策定（新規）	担当者名	木村 卓磨

事業の目的・内容	令和2年3月で第2期野辺地町教育振興基本計画の計画期間が終期を迎えるにあたり、令和2年4月から令和6年3月までの5年間の新たな教育行政の指針となる第3期野辺地町教育振興基本計画を策定した。 基本計画の策定にあたっては、諮問機関として野辺地町教育構想検討委員会を設置し、検討委員会から答申された基本計画案を基に策定した。 【委員報酬・旅費】96,180円、【印刷製本費】60,500円（200部）			
事業の対象	教育委員会・教育各分野関係者			
事業費	年度	平成30年度決算	平成31年度決算	令和2年度予算
	金額	— 千円	157 千円	— 千円

事業の実績・成果等（数値）	- 令和元年6月 教育長から検討委員会に諮問 - 令和元年6月～11月 計6回検討委員会を実施 - 令和元年8月～9月 各学校保護者（PTA役員）との意見交換会 - 令和元年12月 検討委員会から教育長に答申 - 令和元年12月～令和2年1月 基本計画案に係るパブリックコメントを実施 - 令和2年2月 教育委員会定例会にて基本計画制定 - 令和2年3月～ 印刷製本し、関係機関及び教育関係者に配布（町HPに公開）			
---------------	---	--	--	--

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	策定にあたり、検討委員会の委員の方々には、多大な協力をいただいた。委員として、町内外の学識経験者や各分野の教育関係者に参加してもらうことで幅広い知見を得られた。 検討委員会の中では、少人数のグループワーク形式にて、各教育分野の課題や改善策等について検討してもらうことで、各委員から多くの意見をいただくことができた。 また、各学校の保護者の方々と、改めて直接意見交換したことで、施設や教育活動に対する率直な意見を基本計画に反映することができた。		
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☒ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	B	B	B	B	—

評価委員意見（参考：平成30年度の評価意見）

平成31年度新規事業のため、前年度評価なし。

評価委員意見（平成31年度）

・5年に1度の作成お疲れ様でした。

事務事業評価シート

施 策 名	その他	担当課名	学校教育課
事務事業名	教育広報の発行	担当者名	小又美穂、杉山拓

事業の目的・内容	平成23年度から、教育施策及び行事等を紹介するため、教育広報「のへじの教育」を発行。平成30年度からは、きめ細かいタイムリーな情報を提供するため、4・10月の年2回発行している。			
事業の対象	町民一般（各家庭に毎戸配布）			
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算	令和 2 年度予算
	金 額	91 千円	70 千円	39 千円

事業の実績・成果等（数値）	○4月発行内容 教育委員会主要事業の紹介、前年度の学校行事紹介、子どもの文化・スポーツ団体紹介			
	○10月発行内容 本年度の実施事業紹介、行事予定 ※小中学生の活動の他、高等学校の記事も掲載している。			

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要がある。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	・町広報や学校だよりでは紹介しきれない、教育委員会の業務や学校の活動について掲載することができ、教育委員会の透明性に努めている。 ・紙面スペースの関係で紹介する事業に限りがあることから、年度によって、紹介する事業を変えている。		
今後の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成30年度の評価意見）

・紙媒体のため、紙面スペースが限られてしまうので、そろそろホームページ化に踏み切れればどうか？各学校の学級だよりプラスアルファの情報発信が可能になり、「教育のための社会」が広がっていく一助となる。 ・教育の町「野辺地町」の教育に対する考えや、活動を知ることのできる教育広報だと思います。 ・町の取組みが分かりとても良い。知らなかったことを知ることができ、興味が湧く。

評価委員意見（平成31年度）

・R2年から年1回の教育広報になるので、内容がびっしりになると思います。今後もぜひ絶やすことなく発行してほしいと願っています。個人的に楽しみに読んでいました。 ・年1回の発行に全力をそそぎ、みんなが求めるものにしてほしい。また、SNSでの発信も望む。
--

事務事業評価シート

施 策 名	その他	担当課名	学校教育課
事務事業名	「青い目の人形・レイワちゃん」 歓迎会の開催（新規）	担当者名	飯田 満

事業の目的・内容	92年前に日本との親善を深めるために、アメリカから「青い目の人形」が城内尋常高等小学校（今の野辺地小学校）に贈られ、当時、野辺地国民学校に勤務していた先生のご家族が保管していたことが分かり、町に寄贈されたことから歓迎会を開催。			
事業の対象	児童・生徒、一般町民			
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算	令和 2 年度予算
	金 額	0 千円	90 千円	0 千円

事業の実績・成果等（数値）	・「青い目の人形・レイワちゃん」 歓迎会の開催 開催日：令和元年6月24日（月） 開催場所：野辺地小学校 参加者数：約400人（小学校児童・町民一般） 内容：童謡「青い目の人形」歌唱、児童代表あいさつ、「人形を迎える歌」合唱、講話 ・児童への出前講話の実施、合唱練習等 ・協力団体及び協力者の事前練習 ・「レイワちゃん」の小中学校移動展示 ・「レイワちゃん」衣装替え（地域の方が協力）			
---------------	--	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	・「レイワちゃん」を通じて、当時の日本の置かれている状況を学ぶ機会となり、現在も地域の方の協力等を得て、大切に保管されている。 ・歓迎会開催に際し、多くの方々にかかわっていただき、「レイワちゃん」は後世に伝える町の財産となった。		
今後の方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		A	A	B	A	A	—

評価委員意見（参考：平成30年度の評価意見）

平成31年度新規事業のため、前年度評価なし。

評価委員意見（平成31年度）

・レイワちゃんを「平和のかけはし」として何か活用して行くチャンスがあればと思います。 ・6月の「レイワちゃん歓迎会」をスタートに、各学校で展示し、11月以降は野辺地小玄関にて、毎月衣装替えをしているなど、継続して展示している内容が良いと思う。 ・大切にしたいと思う。 ・これからも野辺地町のイベントで活用してほしい。

事務事業評価シート

施 策 名	その他	担当課名	学校給食調理場
事務事業名	給食費の未納対策強化	担当者名	荒谷 源一

事業の目的・内容	学校給食費の滞納額を減少させる。 ・平成25年度以前分は、所在不明者や所得が低い者が多いので欠損処分を考える。 ・児童手当の充当により滞納額減少に努める。 ・要保護世帯分は、学校長から上北県民局に納付依頼し年度末に全額徴収する。 ・準要保護世帯は、給食費免除としている。			
事業の対象	小・中学校の給食費未納 72世帯、滞納額 14,934,090円 昭和63年度から平成25年度未納世帯			
事業費	年度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算	令和 2 年度予算
	金額	140 千円	245 千円	159 千円

事業の実績・成果等（数値）	徴収対策：日中の徴収可能な世帯は時間内訪問 ※時間外手当 12,000円/月 ・毎月電話催促、臨戸訪問による徴収、納付書の送付 ※7月催告書の送付 ・年児童手当 1,752,070円を給食費に充当 ・新規利用者に「給食利用申込書」の「児童手当から引落しを承諾する」を記載依頼 ・給食費滞納世帯へ児童手当充当の申出書提出依頼 ・H31 調定額 36,120,930円 - 収入額 36,066,980円 = 未納額 53,950円 徴収率 99.9 % (6月支給の児童手当で収納済み)			
---------------	--	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	成果	H31年度 滞納徴収額 1,307,200円 (H4年度～H30年度分) 年度末未納額 14,880,140円	
	課題	不能欠損処分ができるよう今後対策を考える。 保護者の死亡や住所不明者の徴収不能滞納額が多い。	
今後の 方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		A	A	A	B	A	A

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・未納に対して何も心が痛まない人がいてほしくないと思います。全く支払いが不可能な人たちの状況が分からないので、ケースバイケースで対応しているかと思い、ご苦労様です。
--

評価委員意見(平成31年度)

・未納額の大きさに驚くばかりです。この予算があったら町の財政負担が減ったと思います。私1人ぐらいではなく私ができる事を小さい所からしていく、そんな町民がたくさんいてほしいと思います。 ・対策については、良いと思う。
--

事務事業評価シート

施 策 名	その他	担当課名	学校教育課
事務事業名	就学援助費事業	担当者名	橋本 幸子

事業の目的・内容	経済的な理由で町立小・中学校への就学が困難な家庭及び特別支援教室等で就学している児童生徒世帯への就学援助事業。 転入や年度途中で離婚等により申請する保護者が多かった。 (給食費、新入学費、学用品費、修学旅行費、校外活動費、体育実技費を補助)		
事業の対象	野辺地町内小・中学校 及び町内から他町村学校に通う児童生徒 (一人親世帯、非課税世帯その他町村に比べ認定要件が多い)		
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算
	金 額	7,953 千円	6,067 千円
			令和 2 年度予算
			7,899 千円

事業の実績・成果等(数値)	要・準要保護就学援助費 ※準要保護は、全額町負担 国庫補助なし (小学校要保護・準要保護) 2,682,902円181名 平均1人当たり33,122円 (中学校要保護・準要保護) 2,884,934円48名 平均1人当たり60,103円 (小学校要保護) 44,000円 1名 修学旅行費のみ対象 ※ 国庫補助22,000円 特別支援就学奨励費 小学校8名 234,359円 中学校4名 264,065円 ※国庫補助 216,000円		
---------------	---	--	--

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	児童扶養手当を受給していても申請していない保護者もいる。 途中から離婚等により児童扶養手当を認定された保護者には、教委から電話 をかけ、説明し「就学援助の申請ができますよ」と声をかけたところほとんどの保護者が「知らなかった。」と言いつきに新たに申請した。 また、児童扶養手当の認定を受けた保護者には、健康づくり課職員からも教委の就学援助事業を紹介してもらい、申請できることを伝えてもらうようお願いした。また、その他申請可能な場合があるので相談するよう学校にも依頼した。 離婚し、転入する保護者が多いのでスムーズに認定できるよう努力した。		
今後の 方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		A	B	A	B	A	B

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・説明の周知徹底を図れば更に良い。

評価委員意見(平成31年度)

・本当に必要としてる人へ届けられると良いと思います。気になる方へ連絡を入れ、情報を伝えて、助けられた方がいると知り、安心しました。

事務事業評価シート

施 策 名	学校支援活動	担当課名	学校教育課
事務事業名	学校支援推進事業	担当者名	飯田 満

事業の目的・内容	学校が地域と一体となって子どもを育む、地域とともにある学校づくりを目指す。地域住民による学校支援活動の充実と一層の活性化を推進する。			
事業の対象	各学校			
事業費	年度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算	令和 2 年度予算
	金額	66 千円	53 千円	330 千円

事業の実績・成果等（数値）	・学校支援ボランティア活動を各学校ごとに実施 登下校の指導（見守り隊）、部活動の指導、図書の整理や読み聞かせ、水泳教室での指導、環境整備などさまざまな学校支援活動を地域の住民等の参画を得て実施した。 野辺地小学校 見守り隊 23名 学校支援 4名 若葉所学校 見守り隊 17名 学校支援 10名 馬門小学校 見守り隊 8名 学校支援 5名 野辺地中学校 学校支援 14名			
---------------	---	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	学校ボランティアに登録している方には、町費によりボランティア保険に加入している。 見守り隊については、平成31年度から連絡会を組織し、情報交換会を開催した。情報交換会では、課題の共有や備品等の要望を確認し、令和2年度に整備を進める。		
今後の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成30年度の評価意見）

・学校支援ボランティアは、重要な課題。教師の働き方改革でも登下校の安全を地域の力で見守る方向が打ち出されている。

・コミュニティスクールの方向とも一致している。

・見守り活動は、野辺地小学校では活発な活動が見られますが、若葉小学校は少ないような気がします。ボランティア活動は本当に必要だと思います。

・町の予算がついて素直にうれしい。気持ちで成り立っている事業であると思うので、町の気持ちに感謝です。

評価委員意見（平成31年度）

・役に立ちたいと自分からすすんで学校支援をされている方々に頭が下がります。

・学校支援活動は、ますます大事になってくると思われるが、構成員がほぼ、定年後の方々となっているので、「推進」といっても、実際に補助が充分にないと、戻すほみになっていく懸念がある。

・見守り隊の高齢化が気になるが、継続していただきたい。

・地域住民のボランティア精神のうえ成り立っている事業でありがたいと共に、もう少し学校と地域を結びつけるきっかけとなる何かがほしい。

事務事業評価シート

施 策 名	学校保健の取組み	担当課名	学校教育課
事務事業名	児童・生徒各種健診及び教職員特定健診	担当者名	小又 美穂

事業の目的・内容	学校保健安全法第13条に基づき実施し、児童・生徒・教職員の健診等により適正な健康管理を行い、健康で充実した学校生活を送るため実施する。			
事業の対象	児童、生徒、教職員及び次年度就学予定の幼児			
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算	令和 2 年度予算
	金 額	3,542 千円	3,694 千円	4,639 千円

事業の実績・成果等（数値）	児童・生徒の健診について、内科、歯科、耳鼻科、眼科、尿検査を学校医等により全学年を対象に実施。心電図検査は小学1・3・5年生、中学1・3年生を対象に実施。貧血検査は、保護者からの同意を得られた小学5・6年生・中学2・3年生を対象に実施。色覚検査と運動器検査の実施も含め、すべて6月末までに終了した。			
	教職員健診は、1日ドック・1日健診者以外の教職員を対象に健診を7月に一斉に実施した。			
	就学時健診は、来年度小学校に入学する幼児（80名）を対象に令和元年10月23日に実施した。			

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	オージオメータ（聴力検査機器）の予算要望をしたが削減されたため、今後も要望を続けていく。 教職員のストレスチェックについては予算要望が通ったため、令和2年度内に実施予定である。		
今後の 方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		A	B	B	B	A	A

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・これほどの予算がかかっていることを初めて知った。本当に助かっている。 ・教職員のストレスチェックは毎年行っていただきたい。 ・短命県返上のためにも力を入れて頑張してほしい。
--

評価委員意見(平成31年度)

・聴力検査の機械（H29年）1台を学校で回して使用していると知りました。この他に、何か不自由な事があったら、もっと情報を収集した方が良いと思います。 ・心身共に健康であることを願います。先生方、疲れ過ぎです。
--